

# ゆきみの雪



mikatuki98

水の精たちの住む星の子供たちが、今夜はとても緊張していました。

いよいよ明日の朝は、ゆきみちゃんの住んでいる街に雪になって降りてゆくのです。

「雪初体験組みの皆さん、こんばんは♪」

「こんばんはあ〜♪」

「今から、雪になる為のお約束事を言います。ちゃんと聞いて下さいね！」

「はあ〜い！」

「まず、皆さんは水の精ですね？」

「はあ〜い、水の精で〜す」

「では、どうして皆さんが雪になれるか分かりますか？」

「水だからで〜す」

「そうですね。水だからですね。でも、どうして水の精は雪になれて、火の精は雪になれないのでしょうか？」

「え〜〜〜！？ だって火は熱いもん」

「そうですね。火の精は皆さんと違って熱いですね。でも、熱い水もありますよ」

「う〜ん、じゃあ分りません」

「では、説明しましょう。皆さんは、いくつ心の玉を持っていますか？」

「え〜っと、6つです！」

「そうですね。6ですね」

「では、火の精はいくつ持っていますか？」

「う〜ん、分りません」

「では、教えてあげましょう。火の精の心の玉は5つです」

「え〜〜〜！？ 5つしか持ってないの？ 1つ足りないよ」

「そうですね。火の精は皆さんよりも1つ心の玉が少ないのです」

「分った！ 1つ心の玉が少ないから雪になれないんだ！」

「そうですね。でも、雪になるには心の玉がもう半分必要になります」

「もう半分？」

「そうです、もう半分です。それを皆さんの心を少しずつ分け合って半分増やします」

「わあ〜 そうしたら雪になれるんだあ〜」

「では、今からココにいる皆さんと手を繋いで心を合わせて下さい。皆さんとこれから雪になると念じて下さい。そしてお互いを思いやり、優しい気持ちになって下さい。いいですね？」

「はあ〜い」

「でも、1つだけ絶対にしてはいけないことがあります」

「絶対？」

「そうです、絶対です。いいですか、絶対に降りて行く途中でお喋りをしてはいけません！ 誰か一人でもお喋りをしてしまうと、皆さんが全員、水に戻ってしまいます」

「ええ〜〜〜！ どうしよう。 ガマンできるかなあ〜？」

「大丈夫です！ 皆さんと心を合わせたら、きっと綺麗な雪の結晶になって街に降りて行くことが出来ますよ」

「はい！ わたしたち絶対お喋りしません！」

水の精の子供たちは皆で顔を見合わせ、ニッコリと笑いました。 それから口を堅く結んで誰もお喋りをしませんでした。

「では、皆さんの健闘を祈ります！」

水の精の子供たちは深く頷いて、全員がいっせいに地上を目指し、静かに静に降りて行きました。

地上ではそろそろ夜明けを迎えます。

お休み前に雪を楽しみにしていたゆきみちゃんも、そろそろお目覚めです。

きっと一面真っ白なお庭を見て歡ぶことでしょう。

何と言っても、めったに雪の降らない暖かい街に住んでいる、3歳のゆきみちゃんにとっては初めての雪なんですから。了